

## アトピー性皮膚炎が起こるわけ



- アトピー性皮膚炎は
  - 生まれつきの肌の性質と、
  - アレルギーをおこしやすい体質
  - アレルギーの素（アレルゲン）が組み合わされて起こってきます。
  
- 生まれつきの皮膚の性質
  - 脂肪成分の分泌が少なくカサカサになりやすい。
  - 汗の分泌がうまくいかない。
  - 細菌、かび、ウイルスに感染しやすい。
- アレルギーを起こしやすい体質
  - 家族にアレルギーの病気が多い。
    - ・アトピー性皮膚炎 ・ぜんそく ・花粉症
  - IgE抗体を過剰に造ってしまう。
- アレルギーの素（アレルゲン）
  - 腸から吸収されるもの  
タマゴ、ミルク、ダマシ、コムギ、コム、クサ。
  - 皮膚から吸収されるもの  
ダニ、ホコリ、サキン、カビ、薬.....
  - 吸い込むもの  
ダニ、ホコリ、カブ.....
  
- 生まれつきの肌の性質やアレルギー体質は遺伝します。両親や兄弟にアトピー性皮膚炎のある子どもは要注意です。
  
- アレルゲンは2歳未満の乳児では食餌性、2歳を過ぎるとダニやほこりが重要になってきます。
  
- 子どもの成長を祝う昔からの七五三は、3歳で食事性アレルギーの卒業、5歳で皮膚が丈夫になり、7歳で気管や肺が強くなる年齢に一致しています。

## アトピー性皮膚炎の症状

- 主な症状
    - 体がかさかさ乾燥する。
    - 乳首のまわりがただれる。
    - 目のまわりがただれる。
    - したくちびるが荒れる。
    - 顔に「はたけ」が出来る。
    - 頭のふげが多く痒い。
    - 眉毛の外側が薄くなる。
    - 足がさめ肌のようなになる。
    - くびに2～3本のしわが入る。
    - 顔や腕にまるっこい湿疹が出来る。
    - 肘、膝のくぼみの皮膚が厚くなる。
    - 毛穴が盛り上がり鳥肌のようなになる。
    - お風呂やベッドで体が温まると体が痒くなる。
  
  - アトピーは年齢によって症状が変わります。
- 乳児期**
- 顔を中心に皮膚症状が出ます。  
頬に赤いポツポツが出来て、だんだんつながって赤い発疹になります。眉毛や頭に黄色いかさぶたの様な脂漏性皮膚炎(カサカサ)もできます。
  - 乳児期の湿疹が（ただの湿疹）なのか（アトピーの前触れ）なのかを区別することは難しいことです。
  - まず皮膚をしつとりと保つためのスキンケアをしましょう。
  - 湿疹が長引く子では離乳食が始まる頃にアレルギーの検査をしてみましょう。
- 幼児期**
- 頬の赤い発疹                       目の外側の発疹
  - 頭、胸、お腹ががさつく。       耳切れ
  - 関節や足に線条のあせもが出来る。
- 小児期**
- 全身にかさつきが広がる。
  - 肘、膝、首のまわりに湿疹が出来る。
  - 手の砂かぶれ、足のズック靴皮膚炎。
- 
- 乳児期の血液検査（I g E）で陽性が出た食べ物でも、少しずつ食べているうちにアトピー性皮膚炎を悪化させなくなります。食べたらずに起こるアナフィラキシーショック、全身に広がるじんましん、呼吸困難、嘔吐・下痢などがなければ、少しずつ食べて治しましょう。